

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008~2012

課題番号：20530402

研究課題名 (和文) 企業業績格差の国際比較研究

研究課題名 (英文) International Comparison of Performance Gap

研究代表者

中野 誠 (NAKANO MAKOTO)

一橋大学・大学院商学研究科・教授

研究者番号：00275017

研究分野：会計学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：利益率格差、利益ボラティリティ、格差問題、国際比較

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、先進資本主義 12 カ国における、(1)各国内の企業業績格差すなわち *profitability dispersion* の計測(25年間)、(2)格差規定要因の統計分析・制度要因分析を行うことにある。それによって、社会的要請の高い「格差問題」に会計学の立場から考察を加える。資本主義システム国家間で、クロスセクションの意味での格差が異なる点を明らかにし、さらにその要因を探る作業は、今後の日本の経済システムを考える上で、欠かせない作業になるものと考えている。

2. 研究の進捗状況

これまで、本研究では、1982年から2007年における11カ国の利益率格差について分析した。利益率格差の水準と時系列の変動は国ごとに異なっており、その特徴は次の3点にまとめられる。第1に、近年、多くの国において格差が拡大している。第2に、格差拡大が始まるのは1997年前後である。第3に、格差が顕著に拡大している国は、アングロサクソン諸国である。直近の水準でいえば、Canada, Australia, UK, USAの格差が相対的に大きいことが、明らかになった。こうした発見は、資本市場の機能が国ごとに異なることを示唆している。

つづいて我々は、利益格差の決定要因に関する仮説を設定し、統合データ (*aggregate data*) を用いた回帰分析を行った。その結果、会計的要因と非会計的要因の双方が、利益率格差を規定している点が明らかになった。会計的要因とは利益平準化の程度である。一方、非会計的要因には、リスクマネー供給の多寡、資本市場のダイナミクス、小規模企業、景気循環が含まれる。さらに、会計的要因よりも

非会計的要因の方が利益率格差の創出要因として有力であることを示唆する検証結果も得られた。こうした検証結果は、格差の測定方法や会計的要因の定義、モデルの特定化などに対して頑健であった。

こうした分析結果は、いくつかのインプリケーションを示しているものと思われる。例えば、各国の証券取引所における上場基準 (*listing rule*) をどこまで緩和するかという点である。積極的な緩和政策は IPO を増やすことにつながる。しかしながら一方では、クロスセクションの格差を大幅に拡大する。Canada, Australia, UK, USAなどの国では、そのような現象が生じている。また、一時期のドイツでも同様の現象が観察された。この点は、各国の経済政策に依存する論点であるが、本研究はその点を計量的に分析し、明確化している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 計量分析が順調に進捗し、当初の予定通りに、書籍の出版、論文の投稿、海外学会での報告も進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

われわれの研究成果は独自性が高いものであるため、既存研究の潮流の中で、いかなる位置を占めるのかを、最新の研究動向を踏まえつつ、明確にする。そのうえで、英文レフジャーナルへと投稿したい。また、既に海外の学会報告において、いくつか有益なコメントをいただいている。特に、会計的要因に関しては、既存研究が用いている変数を活用すべきだという指摘が多かった。その点については、既存研究をフォローすれば良い

だけのことであるので、容易に実行することができると考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 中野誠・高須悠介、「利益持続性と利益調整行動 —利益ボラティリティ構成要素アプローチ-」、『一橋商学論叢』、査読無し、第 6 巻第 1 号、2011 年、近刊 (掲載確定)、ページ数は未定。
- ② 中野誠、「国の競争優位の財務分析-日米欧の国際比較-」、『会計』、査読無し、第 174 巻第 5 号、2008 年、660-672 頁。
- ③ 中野誠、「研究開発活動の会計学」、『企業会計』、査読無し、2008 年 6 月号、49-55 頁。

[学会発表] (計 4 件)

- ① Makoto Nakano, Yasuharu Aoki, "What Explains Widening Profitability Dispersion around the World?" 22nd. Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, November 9, 2010, Gold Coast, Australia.
- ② Makoto Nakano, Yasuharu Aoki, "The Accounting and Non-Accounting Factors Effect on Macro Profitability Dispersion." American Accounting Association, Annual Meeting, August 4, 2010, San Francisco, United States.
- ③ Makoto Nakano, Yasuharu Aoki, "What Explains Widening Profitability Dispersion around the World?" Korean Accounting Association, Annual Summer International Conference, June 19, 2010, Busan, Korea. (Invited Talk)
- ④ Makoto Nakano, "International Comparison of Profitability Dispersion." 20th. Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, November 10, 2008, Paris, France.

[図書] (計 3 件)

- ① Itami, H., K. Kusunoki, T. Numagami, and A. Takeishi eds, *Dynamics of Knowledge, Corporate Systems and Innovation*, Springer, 2010 年、総ページ数 355、そのうち 293-314 頁を担当。
- ② 中野誠・野間幹晴編著、中央経済社、『日本企業のバリュエーション —資本市場における経営行動分析』、2009 年、総ページ数 234。

- ③ 中野誠、東洋経済新報社、『業績格差と無形資産—日米欧の実証研究』、2009 年、総ページ数 207。